

# ☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

## 2013年度 東京 SJCD 第3回例会のご案内

残寒の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて来る3月2日に開催されます2013年度東京 SJCD 第3回例会につきましてご連絡申し上げます。今回はインサービストレーニングとして、歯周治療やインプラント治療で皆様ご存知の二階堂雅彦先生をお招きし、歯周治療の真髓をお話いただきます。ケースプレは今回が例会初発表でかなり気合の入った4名先生が発表されます。皆様お誘い合わせの上ご参加頂きますようお願い申し上げます。

※ 2014年度4月以降の例会・分科会にはクレジットカード機能付きの会員証が必要になります。カード作成のお申込をされていない方は当日午前9:00～クレディセゾン会社の受付窓口にてお申込後、入場可能となります。この度は大きなシステムの変更に伴いご不便おかけいたしますがお手続きの程よろしく願いいたします。

日時 2014年3月2日(日) 受付開始 9:30 / 開演 10:00～17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 TEL 03(3265)8211

### -講演-

「エビデンスから読み解く歯周病治療のストラテジー」

医療法人嚙矢会二階堂歯科医院 二階堂雅彦 先生

アメリカ歯周病学会 (American Academy of Periodontology)

アメリカインプラント学会 (Academy of Osseointegration)

日本臨床歯周病学会

日本歯周病学会

日本歯科麻酔学会

\*抄録はHP参照：<http://www.tokyo-sjcd.com/>

### -ケースプレゼンテーション-

「多数歯カリエスによる咬合崩壊に対し、オクルーザルリコンストラクションを行った症例」

こうしん歯科医院 零田義和 先生

「骨格的Ⅱ級1類に対して上顎オーバーデンチャーにて咬合再構成した症例」

さだきデンタルクリニック 坂本貞樹 先生

「すれ違い咬合のフルマウスリコンストラクション」

ライフデンタルクリニック 富施博介 先生

「インプラント補綴と矯正治療を併用した咬合再構成の1例」

パークサイドデンタルオフィス 吉田茂治 先生

アメリカ歯周病学会 (American Academy of Periodontology)

アメリカインプラント学会 (Academy of Osseointegration)

日本臨床歯周病学会

日本歯周病学会

日本歯科麻酔学会

\*

歯周病患者は多様な臨床像を示します。“8020 達成者“に代表されるように高齢にもかかわらず、ミニマムな付着喪失しか示さない患者がいる一方、30代や40代、時には20代にもかかわらず進行した歯周病を伴って来院する患者がいます。なぜこのような違いが生じるのでしょうか？

歯周病は細菌とわれわれの体（宿主）の相互作用によって生まれる疾患です。そしてどのような遺伝的素因が発症や進行に大きくかかわっているのかが、近年次第に明らかになってきました。では遺伝的な病気ある以上、コントロールはできないのでしょうか？いいえ、否です。

本講演では、このような歯周病患者像を、今まで蓄積されたさまざまなエビデンスから解きほぐし、それぞれの患者のリスクを評価し、どのような治療ゴール、またストラテジーをもって治療にあたっていくべきなのかを、再生療法をおこなった症例を中心に述べていきたいと思います。

「多数歯カリエスによる咬合崩壊に対し、オクルーザルリコンストラクションを行った症例」  
雫田義和 先生

2006年 東京歯科大学卒業

2007年 岩本町デンタルクリニック勤務

2011年 こうしん歯科医院 勤務

本症例は“多数歯にわたるカリエス”と“補綴物、修復物の脱離”そして、それらを長期間放置したことによる“歯牙の位置異常”、これらによる咬合崩壊に対する治療報告になります。長期にわたる良好な予後を目指し、適切なアンテリアガイダンス、適切なバーティカルストップの確立、そして審美性の改善を治療目標としました。

まず上顎中切歯切縁の長さ位置をプロビジョナルレストレーションをもちいて決定し、そこを基準に補綴、修復の計画を立案しました。しかし歯牙の位置異常による審美性の改善が困難であったため、まず部分矯正でトゥースポジションの改善を行い、その後補綴治療を行いました。

本症例を通じ、治療計画の立案から最終補綴の装着、メンテナンスまでの考え、苦勞した点なども含めて発表させていただきます。

「骨格的Ⅱ級1類に対して上顎オーバーデンチャーにて咬合再構成した症例」

坂本貞樹 先生

- 2004年 日本大学松戸歯学部卒業。
- 2004年 東小金井歯科 及び 岩田オッセオインテグレーション研究所 研修。
- 2006年 高島歯科勤務
- 2009年 大河デンタルクリニックに勤務。
- 2014年 さだきデンタルクリニック開院

近年、人々の健康意識が高まると共に予防治療や矯正治療が進歩しています。しかしながら多数歯欠損補綴治療の需要は増えています。それは医療の進歩により、高齢になっても健康な生活の維持をし続けられるようになったからです。現在インプラント補綴が注目されていますが、歯槽骨が高度に吸収してしまっていたり、歯、顎の前後左右的なズレが大きかったり、金銭的理由からオーバーデンチャーの需要は増えてくると思われます。今回発表させていただく症例は骨格的に前後的な大きなズレがある患者さんに対して、上顎オーバーデンチャーにて審美、機能を回復させた症例です。オーバーデンチャーは成功の鍵はその設計、デザインであると思います。この事に重点を置き今回は発表させていただきます。

「すれ違い咬合のフルマウスリコンストラクション」

富施博介 先生

- 2001年 日本歯科大学を卒業
- 2005年 東京 SJCD レギュラーコース修了
- 2007年 ライフデンタルクリニック開業

患者さんは65歳男性。インプラントを希望され来院されました。口腔内は、すれ違い咬合で局部義歯を使用していました。咬合平面のずれや、左右側で異なる顎堤吸収を考慮した咬合再構成が必要なケースです。SJCDのトリートメントフローチャートに沿って、整理しながら確実な治療が行えました。

「インプラント補綴と矯正治療を併用した咬合再構成の1例」

吉田 茂治先生

- 1999年 日本歯科大学卒業
- 1999年 東京医科歯科大学顎顔面外科勤務
- 2001年 東京医科歯科大学顎関節治療部勤務
- 2002年 さいたま市大宮区 パークサイドデンタルオフィス開設

患者は57歳女性。主訴はインプラントによる臼歯部咬合の回復。診査の結果、前歯部叢生に伴いアンテリアガイダンスが適正に機能しないこと、またパラファンクションの存在が臼歯部欠損を生じさせた一因と診断しました。安定したバーチカルストップの確立と、適正なアンテリアガイダンスに導かれたポステリアディスクルージョンの獲得を目指し、インプラントによる臼歯部咬合回復と併行して矯正治療を実施する計画を立案しました。今回のケースを通じて学んだことを含めてご報告させていただきます。